

事例20:「みんなでハンバーガー屋さんをしよう」 5歳児(11月)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)との関連

②自立心③協同性⑤社会生活との関わり⑥思考力の芽生え⑨言葉による伝え合い⑩豊かな感性と表現

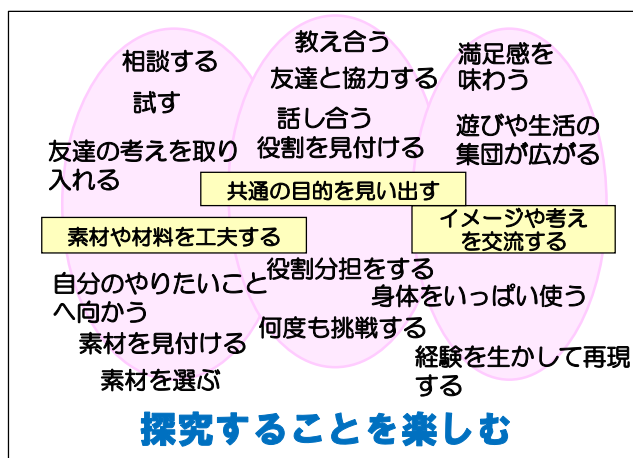
これまでの姿

友達とのつながりがさらに深まり、以前よりも友達と誘い合って好きな遊びを楽しむ姿が見られている。その中で「みんなでハンバーガー屋さんをしよう」と言った子どもの一声から遊びが発展し、自分達で考え工夫しながら遊びを進めている。

◎ねらい○内容

- ◎友達と目的に向かってイメージを伝え合い、工夫したり試したりしながら遊びを進めていく楽しさを味わう。
- いろいろな材料のイメージに合うものを選んだり、作り方を工夫したりして、遊びに必要なものを作る。
- 自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いや考えを受け入れたりしながら、工夫したり協力したりして遊ぶ。

架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)



遊びの様子(番号:10の姿との関連)

「みんなでハンバーガー屋さんしよう」と言った子どもの一声から遊びが発展し、⑩自分達で考え、画用紙を丸や長方形の形にハサミで切り、平面のハンバーガーやポテトを作って遊びを進めていた。始めは各々が自由に製作し、それらを売っていた。子ども達同士で「ハンバーガー屋さん行ったことある」「みんなで行けたらいいね」と話が広がり、実際に子ども達とハンバーガー屋さんに行った。②③⑤⑥店員さんの様子を見たり買い物体験をしたりしたことで、「お待たせしました」「ジュースは何味がいいですか」等、遊びの中でやり取りを楽しむ姿が見られるようになった。またハンバーガーを実際に手に取り触れたことで、製作を進めるうちに⑩「ハンバーガーはもっとふっくらしてた」と本物らしさにこだわる姿も見られるようになった。保育室の製作コーナーを眺めながら「パンのふわふわした感じは綿にしたらいいと思う」と自分のイメージに合う材料を選び、遊びを進めるようになった。⑨⑩ポテト作りでは、「油で揚げる前のポテトは薄いクリーム色やけど、料理したあとはもっと黄色になるよね」と友達と話をし、イメージを共有しながら製作を楽しむ姿も見られた。

★環境の構成

○保育者の関わり

○互いの考えや思いを伝えたり聞き入れたり、話し合ったりできるようにする。

★子どもの興味・関心がある事柄に寄り添い、本物らしさに触れることができるような機会を設ける。

★子どもがイメージしていることが達成できるように、必要な材料や道具を準備しておく。

○子ども達が自分なりにイメージした物を工夫しながら作れるように、子どもの発想を認め、共感していく。

★じっくりと取り組めるように十分な時間の確保をしたり、一日の流れの見通しをもった活動ができるようにする。



遊びや学びのプロセス(10の姿)

「みんなでハンバーガー屋さんをしよう」活動のプロセス

ハンバーガー屋さんに向かって遊びを進める

★じっくりと取り組める十分な時間の確保をする。

○子ども達の発想を受け止め繰り返し挑戦する姿を見守る。

自分の考えを出し、試行錯誤し工夫する

★本物らしさに触れる機会を設ける。

○話し合いができる雰囲気づくりを心がける。

②自立心

ハンバーガー屋さん主体に関わっている。

③協同性

ハンバーガー屋さんという一つの遊びを一緒に楽しむ喜びを味わう。

⑤社会生活との関わり

実際に自分で買い物をしたり、友達と一緒に同じ店に行くことで自分だけでは気付かなかったことを知ったり、遊びがより楽しくなったりする。

⑥思考力の芽生え

本物に触れたことで、自分の考えをよりよいものにしようとする。

⑨言葉による伝え合い

実際に見たことを言葉にして伝え、友達と心を通わせる中で言葉による伝え合いをより楽しいと感じている。

⑩豊かな感性と表現

思いを巡らせ、感じたことや考えたことから必要なものを選んで表現する過程を楽しんでいる。



小学校教員の気付き

◆実体験を大切にしたことによって、より遊びが豊かになっています。ICT化が進んでいますが、小学校も実体験が大切な部分を見極めてカリキュラムマネジメントを行っていきたいと思います。

◆本物のお店のようなハンバーガー屋さんになりたいとの思いが、みんなで共有されていることで、友達の考えを聞く必然性が高まっていました。コミュニケーションが活発になるためには、目的や状況、場面など学習環境が子どもにとって意味のある文脈をもっていることが大切だと思いました。

保護者への発信ポイント

◆はじめは、平面の製作物で遊んでいたが、五感を通した実体験をしたことで、イメージが膨らんでより明確となり、本物らしさにこだわる姿に変わっています。イメージに合う素材を探し、友達との会話を楽しみながら遊んでいます。

◆子どもたちのイメージをより高めるためには、実体験が大切です。子ども達の活動(遊び)がどういったねらいで進められているのかを、保護者に発信することで、本物に出会う機会が増えることにつながります。